

平成24年度事業報告について

全体を通して

24年度は、介護報酬が改定され、その初年度でありました。収益の柱である特養の収入がどうなるか心配していましたが、特に減らすこともなく、改定どおり運営できたのではないかと考えております。詳しくは決算の認定のところで報告させていただきます。

また、重点事項の一つとして取り組んでまいりました、おおはま荘ですが、補助金をいただく関係から、開設までのスケジュールには非常に厳しいものがあり、一つの躓きも許せない状況でございましたが、皆様のご理解ご協力により順調に進捗させることができました。現在、工事の方も工程どおり進んでおります。

開設は平成26年1月を目途にしておりますが、余り期間がありませんので厳しいスケジュールには変わりがない中で、スムーズにスタートが切れるかどうかは、そこで働く人たちを予定通り採用することができるかどうかにかかっているものと認識しております。併せて、入所していただく方の確保も課題となります。特養を待っていただいている方が多くいらっしゃいますので、満床になることにはそう心配することもないと思いますが、どういう人たちに入所していただくかとなれば、これはなかなか難しい問題です。例えば、既申込者の優先性、入所の緊急性（在宅優先等）、地域性（地元優先）、定員をオーバーした場合の選定の方法などを検討しなければなりません。さらに、全室個室ですので部屋代を自己負担していただくことが必要ですが、経済的に困難な方にもこの施設を利用していただけるように軽減措置なども検討課題となります。

以上、具体的な課題を残して24年度を終了することになりましたが、全体としては、当初計画したとおり、概ね達成できたのではないかと考えております。

それでは、平成24年度の主な取り組みについてご報告申し上げます。

1 身体拘束ほか

入所者の身体的・精神的拘束を可能な限り廃止していきたいとの強い思いで現場を指導してきましたが、職員の努力のおかげもあって、深刻な事態にならず概ね前段の段階で止めることができおり、静かに生活を送っていただくことができます。ただ、下半期に入っても、胃ろうチューブ抜去のためのミトン着用がありました、チューブ抜去が発生すれば、即医療面での処置が必要となり、年末年始の連休等医師が不在でその対応が難しいケースでは、身体拘束三原則を適用して、ミトンの着用をお願いしております。

今後とも、身体拘束廃止マニュアルを厳格に適用し、職員の介護力アップで極力身体拘束をしないで済むよう努めてまいります。

褥瘡については、年間を通して褥瘡の症状が見られた方はおられませんでした。一時期栄養状態の関係等から褥瘡の処置が必要な方がおられました。いずれも突発的であり、

期間も限られたもので消失しております。今後とも、体位変換、エアマットの使用、褥瘡処置、栄養の摂取等リスクの高い入所者についてはよりきめ細かいケアに努めてまいります。

排泄ケアについては、上半期でも報告したとおり、現在の状況、状態をできるだけ維持し、また、新たなおむつ着用を予防する等の方針で、毎月一回排泄ケア委員会を開催し取り組みを進めております。このうち、排泄に問題のある者、おむつ外しが期待できる者については、医務室、寮母室、調理室、リハビリ等それぞれが役割分担の下にアセスメントを行い、その者のケアプランを策定し、ケアを実践することにより、おむつに頼らない自主的な排泄につなげていければとがんばっております。

認知症ケアについては、周辺症状として徘徊、短期記憶障害、実行機能障害等が見られる方もいますが、特に、重いという方は現在のところおいでになりません。みなさん落ち着いて生活できているように思います。今後とも医療との連携を図りながら、入所者の思いにしっかり向き合い、受け入れて、その方の立場に立ってケアができるよう努めてまいります。

特養のリハビリについては、下半期は十分なスタッフの確保が適わず、機能回復訓練加算を取り下げております。午後の集団レクリエーションについては介護職員によって従来どおり実施できました。

早急に体制を確保し、入所者毎のケアプランに基づく個々の対応により、身体機能面の回復、維持、認知症予防、進行を遅らせるなどに努め、たくま荘での生活がぼんやり、無気力にならないよう豊かなコミュニティの中でメリハリを持って前向きに送れるよう支援してまいります。

口腔ケアについても、歯科衛生士の介入で口腔内の清潔が保たれ、咀嚼機能の維持、誤嚥性肺炎の予防に一定程度効果を発揮しているものと考えております。

2 介護記録の電算化

請求事務の電算システムのバージョンアップに併せて介護記録の電算化を導入しましたが、今のところ基礎的なデータの入力については、問題もなく作業が行われております。

今後は、このデータを有効に活用する手立て、いろいろな機能を百パーセント引き出す力の養成、より効果的な使用方法を考えていかなければなりません。

3 介護報酬改定

事業別利用者一日一人当たり単価は次のとおりですが、前年度と比較すると特養が±ゼロ、在宅関係では、たくまデイ1, 02、大浜デイ、居宅支援がそれぞれ1,06、ヘルパー

が 1,01 となっています。

収入の中でも大きなウエイトを占める特養で単価が伸びなかったのは問題ではとも思いますが、介護報酬単価は入所者の介護度が影響しますので、もう少し分析してみないとなんともいえませんが、いずれにしても平成 24 年度は改定の行われた初年度でありました。

報酬改定は特養では介護度 1～5 までおしなべて 2.2%程度の減額、在宅関係は、特に、デイサービスで通所時間の一時間延長で 3 から 4%増額、ただし、予防は支援 1 が 5%、支援 3 が 3.4%の大幅減額で都合 1%程度の増額にとどまり、居宅支援関係は据え置きとなっています。加えて、介護職員の処遇改善が介護報酬で評価されることになり、特養関係では 2.5%、在宅のデイ関係では 1.9%の加算が行われておりますので、まとめて今回の改訂では特養では±ゼロ、在宅関係では 3%程度の増加となります。

事業別入所者一人一日当たり報酬単価

区 分	2 4 年度単 価	2 3 年度単 価	比 較
特養	10.962	10.892	1.00
ショート	10.690	11.354	0.96
たくまデイ	8.923	8.763	1.02
大浜デイ	9.094	8.583	1.06
居宅支援	11.558	10.868	1.06
ヘルパー	3.702	3.660	1.01

(いずれも決算の数値)

4 小規模特養の建設

この期は、市への応募や用地交渉・地元対策、農振除外・農地転用などの条件整備のほか基本設計に取り組んできました。今のところ計画通りの進捗しております。用地買収も地権者のご理解を得て円滑に進み、建築確認申請も 2 月 8 日に申請し、軽微な一部手直しのみで無事 3 月 2 8 日に受理されました。

併せて、本体工事の発注事務も進め、2 月 2 8 日には指名業者 1 4 社による現場説明会を開催し、3 月 1 5 日に入札会を開催しました。入札会は残念ながら不調に終わり、引き続き最も安価な金額を入札した者と随意契約の協議に入り、契約の相手方として富士建設・神託組特定建設工事共同事業体が決定しました。契約金額は四億九千万円でした。工期は 3 月 2 1 日から 1 0 月 2 1 日までの 7 ヶ月間です。

次に、各部署の事業報告です。

特養

1、排泄ケアの取り組み

- ・毎月委員会を開き、その都度新規の入所者や排泄状態に変化があった方、問題点について話し合いを行いました。
- ・出来るだけトイレやポータブルトイレでの排泄や自然便に近い形になるように改善や介助の仕方などの個別の対策を考え取り組んでまいりました。

2、口腔ケアの取り組み

- ・自力歯磨き、入れ歯洗浄は毎日、ほぼ全員の方で取り組みました。歯科衛生士による口腔ケアは週 4 回ですが、これもほぼ全員の方がフォローアップを受けることができております。歯科医師による治療や口腔ケアは週 1 回ですが毎回 12～18 名の方が直接のケア、指導を受けることができました。このほか、歯科衛生士を講師に勉強会をもったり外部の研修等にも参加し、知識技能の向上に努めました。

・

3・4、ケアの質を高める・職員の資質向上

- ・ 施設外研修への参加は次のとおりです。

研修名	参加人数
介護福祉人材養成研修会 14 回参加	1 名
要介護認知症高齢者の身体異常の発見と対策	5 名
施設等新任職員研修会	1 名
四国老人福祉施設関係者研究大会	5 名
認知症ケアの体験研修	2 名
福祉従事者等キャリアアップ支援研修会	1 名
三観地区認知症を学び支える会	5 名
新型インフルエンザ対策研修会	2 名
香川県老人福祉施設協議会研究大会	5 名
認知症予防(脳活性化訓練)研修会	3 名
認知症介護研修会	2 名
感染性胃腸炎研修会	1 名
香川県地域ネットワーク研修会	2 名
三観地区認知症学習交流会	4 名
認知症を考える会	6 名

持ち上げない介護、腰痛予防セミナー	1 名
介護力向上講習会 6 回参加	2 名

＊施設外研修後は寮母会などで報告し皆に伝える。

- ・施設内勉強会も実施も次のとおり実施しました。

研修名	参加人数
新任研修	3 名
認知症高齢者の体調観察	25 名
チーム力強化研修	20 名
コミュニケーション研修	35 名
「入浴時の事故防止」勉強会	11 名
「褥瘡予防」勉強会	9 名
「医療に関する教育・研修」勉強会	9 名
「職員の守秘義務」勉強会	10 名
「感染症」勉強会	12 名
「認知症及び認知症ケア」勉強会	10 名
「プライバシーに配慮した介護について」勉強会	12 名
「ノロウィルス感染の特徴・経路・対策について」勉強会	11 名
「排泄ケア」勉強会	11 名
「特養におけるリスク・介護事故・感染症」勉強会	12 名
「介護職向上プログラム」勉強会	全員
「非常災害時の対応」勉強会	11 名
「事故発生時、緊急時の対応」勉強会	11 名
「プライバシー保護の取り組み、持ち上げない介護」勉強会	13 名

また、職員間のコミュニケーションを円滑にし業務の改善につなげていくために、自由な意見を出し合える試みとして意見箱の設置を図りました。

居宅介護支援事業所 たくま荘

1、月平均で計画件数を120件とする

- ・24年度は平均して月124件のプラン作成があり、当初の目標を達成することができました。特に三豊市への事業所の空き状況の報告により依頼件数が多くなっています。今後は、スキルアップを行うことで計画数と共に計画内容も充実したものとできるように、また、書類の遅滞や不備がないように各自自覚をして取り組んでいけるよう努めてまいります。

2、新ソフトへの適応を図る

WINCARA 導入によりケアプラン作成から給付管理までの業務をスムーズに行えるようになっていきます。ケアプラン作成以外にも担当利用者の介護認定の状況把握や業務に必要な情報を作成したりと幅広く活用できるようになっています。

3、居宅支援業務の環境を整備する

軽自動車を追加で一台購入したことにより外出が集中するモニタリング時期も滞ることなく対応することができ事務作業も円滑に取り組めることができました。また、携帯電話や2台の固定電話を利用しているため外部とのやりとりもスムーズに行えるようになっていきます。

たくま荘デイ

1、介護中の事故を減らす。

- ・平成24年度の介護事故発生状況を取りまとめてみますと、多くが秋～冬期に集中しており、ほとんどが要支援～要介護1の利用者の歩行移動中の転倒事故であることがわかります。刻々と変化する利用者の身体状況の変化の把握が今後も重要であるものと認識しております。今後とも、職員の連携の下一件でも介護事故が減らしていけるよう努めてまいります。
- ・年間を通じて、送迎中の人身事故ゼロは達成することができました。

2 年間を通じ、利用人数を平均 25～30 人を目標とする。

- ・H24年4～8月の期間で徐々に月平均利用者数が増加していますが、年間の平均では1日当たり24.4人の利用となり、残念ながら25人以上には及びませんでした。とはいえ、体調不良者が増加する、3～4月、9～10月に利用者を減らすことがありませんでしたし、11～2月の感染症の流行が多い時期に風邪やインフルエンザの流行もなく過ごせたことは例年になく良かったと思っております。
- ・室温・湿度の設定等の環境整備と、職員のうがい・手洗いの徹底、利用者への注意喚起などに努めたことが成果につながったものと思っております。
- ・プーキープロケアについても、取り入れて良かったと感じています。

3、レクリエーションメニューの充実

- ・H24年4月～サービス提供時間の延長があったので、セラバンド体操を取り入れた他、脳トレとして漢字、ことわざ、県名市町村名あてクイズ、頭も使った手あそびなど、種類を増やして実施することができました。

・ 午前中は10時40分から11時10分まで、午後は16時から16時30分までレクリエーション時間を設け、どちらかで体を動かすメニューを実施。機能訓練加算をとっていない方や、リハビリ室での機能訓練が苦手な方にも取り組みやすいようにいろいろ工夫をして取り組んでおります。その結果、利用者の体を動かす時間が増え、健康維持につながったのではないかと考えております。機能訓練が苦手な方にも運動への抵抗感が薄れ、よい取っ掛かりになったのではないかと感じています。

課題としては、女性が好むような手芸やクラフトのメニューが少ないようなので、今後は、これらも含めて楽しみながら行えるようなプログラムをもっともっと導入していけたらと考えております。

平成24年度 たくま荘デイ 介護事故発生状況は次のとおりです。

年月日	利用者	場所	種類	受診
H24.5.23		スロープ	転落	あり
8.22		リハビリ室	転倒	
8.27		ホール	転倒	
9.3		送迎車内	手を挟む	
10.6		ホール	転倒	
10.25		送迎車内	転倒	
11.14		自宅前	転倒	あり
11.19		ホール	転倒	
11.22		リハビリ室前トイレ	転倒	
12.21		ホール	深爪	
12.27		トイレ前	転倒	
H25.1.4		ホール	深爪	
1.10		リハビリ室	転倒	
1.11		リハビリ室前トイレ	転倒	
2.7		トイレ	転倒	
2.14		トイレ	転倒	あり
2.23		脱衣所	転倒	

大浜デイ

1、現利用者様の重度化に対する職員の介護技術の向上と対応

・認知症状のある方への対応や、一人暮らしの利用者への対応について

ミーティングの時に対象となる利用者さんの状態を話し合い、個別介護の対応内容に関する情報の共有化を図るようにしています。

例) 送迎時のガスの消し忘れや服薬の確認等安全確認や、変調時に家族へ緊急連絡等報告を行い問題なく対応できています。

・介護技術を向上する研修等への参加はあまりできませんでした。

2、現在利用されている利用者様のニーズの充足。

・一人暮らしで認知症状の利用者が増えており、送迎時に曜日や時間を忘れていることが多いことに関しまして、着替えや荷物の準備に時間がかかる方がおいでになります、そのような方に対してはデイサービスで次回利用分の着替えを洗濯して、荷物の準備時間の手間を省くように工夫しております。

・個別機能訓練の充実や、脳トレやアクティビティレクリエーションの実施について、身体機能の維持向上や気分転換が図れ、利用者の方も満足されている様子です。

＊25年度より介護予防の事業所評価加算が取れるようになりました。

・食事内容やサービス内容についてのアンケート調査ができていません。改善を図りたいと思います。

・デイサービスセンター10周年の行事や広報活動もできていません。

3、新規利用者の増加について

・地域の民生委員や医師からの問い合わせや、家族からの相談に対して随時対応し、サービスに結びついています。

・今年度は24名(3/31現在)の利用者が新規で利用されています。

・利用日により25名を超える時もありましたが、平均利用者数が25名になる月は ありませんでした。

4、事故を予防し、安心して利用して頂けるサービスの提供

・今年度は車椅子からの転落事故があったので、事故の再発防止のために安全に気を つけています。

・交通安全意識の向上の為、危険な場所や安全な送迎方法などを随時話し合っています。

以上であります。課題としては、平均利用者数を維持するためには、身体機能の維持向上が必要ですが、急な病気になったりしますと、荘内地区は一人暮らしや老夫婦世帯の利用者が多くおられますので、在宅での生活がどうしても難しいケースも出てきます、そうすると入院や施設利用ということになりますので、利用者数を維持するのも困難な土地柄です。

厨房

1、安全・衛生管理の徹底

清潔区域と汚染区域を区別するための床のラインを引きなおしました。

2、シルバー職員の体制強化等

募集をしても働いてくれる人はいなく、退職予定者もあり、現状はきびしくなっています。忙しい中

でのミスを少なくする為に翌日の入所者の食事内容を職員と確認しています。

3、災害時の対応マニュアル作り

現在の非常食の備蓄はα米 100 食×3 日分です。本当に大災害があった場合、米だけでは足りないで、利用できるものをあげていますが、実際にどのように使うかかたちにできていません。

ケアハウス

1、認知症対応のクラブ活動を年間を通じて行う

- ・ 季節の工作や、壁画飾りを手伝ってもらい季節を感じてもらうことができました。
- ・ 畑の除草や野菜作りに対する年間の作業、またその収穫した作物を使ってみんなで協力して調理をしたり、食べたりする事で、主婦であったり家庭を思い出し、楽しいひと時を過ごす事ができています。部屋は違うけれど、一声かけて集まれば力をあわせ手早く作業ができており、一つの場所に集まる事で、必然と会話も生まれ交流が図られております。ケアハウスという大きな屋根の下、みんなで協力しておやつを作ったりすることはとても大切な事と痛感しております。このような行事を通じて絆が強まり、心穏かに生活してもらえればと願っております。

2、閉じこもりがちな入居者にアプローチする

- ・ いろいろな事に興味関心を示さず部屋に閉じこもりがちな方がいます。行事には声掛けもしますが部屋から出てこようとしません。ただ、こういう方でも食事となると話は別らしく、スローではありますが自ら行動を起こしますので、食べる事に反応してくれるのならこのような機会を捉えて、声掛けをしたり、話し相手になったりと関係性を深めることができればと、医療面との連携を図りながら認知症のケアにも取り組んでおります。

2、ハード面の整備、職員の資質の向上

- ・ 貯水槽のフィルター(網)の掃除を5日に1回行っております。
- ・ 利用者からの訴えに対しては、すばやく対応するように心掛けてまいりました。